

鳥取駅周辺再生基本構想(第2期) 第3回策定委員会 資料

令和2年11月4日

1. 第2期基本構想で掲げる再生ビジョン	1
①検討スケジュール・議題案.....	1
②第2回策定委員会でのご意見・ご提案.....	2
③鳥取駅周辺の課題と魅力.....	4
④ 新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性.....	5
⑤ 再生ビジョンの修正案.....	6
2. 将来像の実現に向けた方策(案)	12
① 実現に向けた方策検討の考え方.....	12
② 将来像のイメージ(案).....	13
③ 実現に向けた基本方針(案).....	14
④ 個別事業の全体イメージ.....	18
⑤ 概略スケジュール(案).....	19

1. 第2期基本構想で掲げる再生ビジョン

① 検討スケジュール・議題案

	開催時期	内 容	備 考
準備会議	R2.4.30	<ul style="list-style-type: none">・鳥取駅周辺の賑わい創出に関する基礎調査について・鳥取駅北口交差点交通実態調査について・鳥取駅周辺再生基本構想（第2期）策定について・鳥取駅周辺再整備に関する意見交換	済
第1回	R2.6.2	[報告・協議] <ul style="list-style-type: none">・鳥取駅周辺再生基本構想（第2期）策定について（背景、目的等）・鳥取駅周辺再生基本構想（第2期）策定検討に関する論点整理 [意見交換] <ul style="list-style-type: none">・鳥取駅周辺の課題、課題解決事業、賑わい創出について	済
第2回	R2.8.17	[報告・協議] <ul style="list-style-type: none">・第2期基本構想策定の考え方・第2期基本構想で掲げる再生ビジョン（案） [意見交換] <ul style="list-style-type: none">・鳥取駅周辺の賑わいの創出や憩いの場の形成に向けて	済
第3回	R2.11.4	[報告・協議] <ul style="list-style-type: none">・第2期基本構想で掲げる再生ビジョン・将来像の実現に向けた方策（案） （実現に向けた方策検討の考え方、将来像のイメージ（案）、実現に向けた基本方針（案）、個別事業及び概略スケジュール（案）） [意見交換] <ul style="list-style-type: none">・鳥取駅周辺の再整備について	
第4回	R2.12頃	<ul style="list-style-type: none">・基本構想(案)（市民政策コメント(案)）について	
市民政策 コメント	R3.1頃	<ul style="list-style-type: none">・市民政策コメントの実施について	
第5回	R3.2頃	<ul style="list-style-type: none">・市民政策コメントの結果と修正案について・基本構想(案)について	

1. 第2期基本構想で掲げる再生ビジョン

② 第2回策定委員会でのご意見・ご提案 【総括】

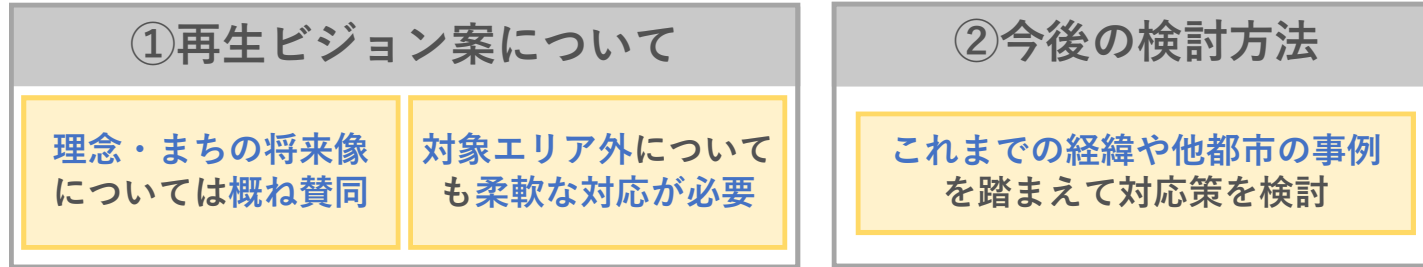
【主なご意見・ご提案】

- 基本理念・まちの将来像については「総じて賛同」
- 対象エリア外（境界線上の沿道施設等）についても柔軟な対応が必要
- これまでの経緯や他都市の事例を踏まえた対応策の検討が必要
- 対応策を短期メニュー・長期メニューに分けて検討・整理することが必要
- 「知らないうちに駅周辺に足が向いていた」という状況をつくりだすことが必要
- 利用する空間、歩行する空間の「連続性・快適性・楽しさ」を創造することが必要
- 移動の円滑性や安全性を考慮した「駐車場と駅前との関係の整理」が必要
- 駐車場割引制度の統一化を図るなど「既存駐車場を利用しやすくする工夫」が必要
- 人が集まり広がる場所として「オープンスペースを様々な形で活用」することが重要
- 駅周辺地区を「日常的・必然的に住民が通う場所」にすることが必要
- 賑わいの場づくりについては「安心して集えるような働きかけ」が必要
- 公民一体で取り組むための「民間活力を活用する仕組みづくり」等が必要

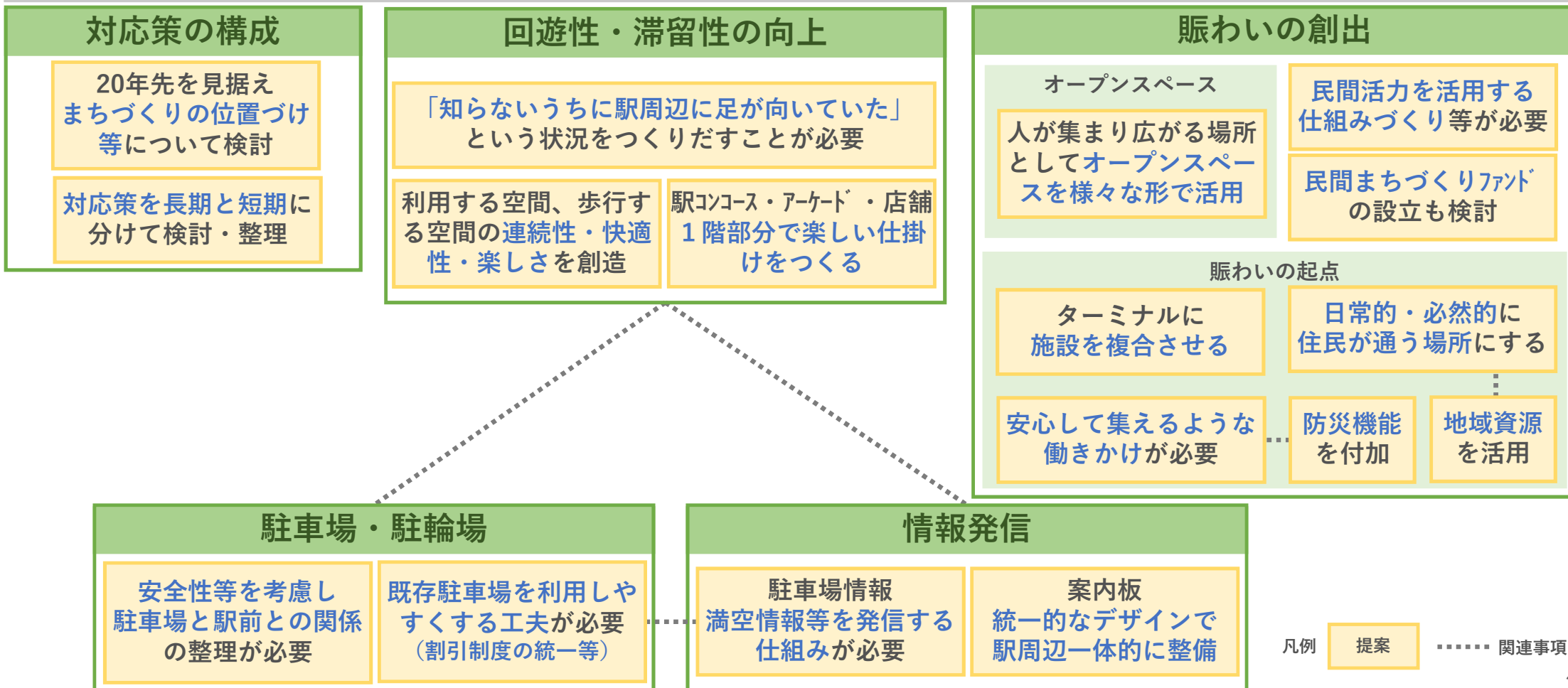
等

1. 第2期基本構想で掲げる再生ビジョン

② 第2回策定委員会でのご意見・ご提案 【体系的整理】



③対応策の検討に向けて



1. 第2期基本構想で掲げる再生ビジョン

③ 鳥取駅周辺の課題と魅力

鳥取駅周辺の魅力・ポテンシャルが生かし切れていない【魅力の再認識】

鳥取駅前

人が集まる

- ・ 山陰最多の乗降客数…【観光客・ビジネス・学生等】
- ・ 学生が集まる…【若葉台には学生街が無い】 【若者の車の保有率の低下】 【看護学校】
- ・ 交通結節点・拠点性…【鉄道・道路・バス】 【市役所移転】
- ・ 滞留性…【鉄道・バスの乗継時間を利用できるため】

経済活動

- ・ 駅前が最も地価が高い都市…【明確な拠点性】
- ・ シャミネ・鳥取大丸の改装…【可能性があるから民間が投資】

開放感

- ・ 広場空間…【（北）風紋広場・けやき広場・バードハット （南）山白川沿い】
- ・ 駅前に「壁」が無い。久松山の眺め。

稼げる・賑わいを
生み出せる可能性

人中心の空間・イ
ベントや憩いの空
間〔単なる空間（ス
ペース）から居場所
（プレイス）へ〕

駅周辺

鳥取の魅力

- ・ 食・温泉【駅前にはないが駅周辺に点在（直売所・地元食材の飲食店・鳥取温泉・繁華街）】
- ・ 建物、文化（民藝美術館）・カフェ（リノベーション）・梨（駅北口前の梨木）

居住

- ・ まちなか居住の利便性【生活必需品が揃う・フラットなまち】
- ・ 鳥取市への移住人気

駅前にないから立
ち寄ってもらえる
可能性（情報・動
線必要）

住み替えだけでな
くアフターコロナ
の受け皿も

これまでの中心市街地での取り組みにより、駅前の課題の解決は一定程度進んできた。全国的な社会経済情勢の変化（人口減少・少子高齢化・買物行動の変化等）には逆らえないとすると、課題解決型だけでなく、鳥取の魅力を最大限に生かし、不足するものを補う視点も重要。

1. 第2期基本構想で掲げる再生ビジョン

④ 新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性

- 国土交通省（都市局）では、新型コロナ危機を契機とした今後のまちづくりの方向性について有識者への個別ヒアリングに基づく論点整理が行われた（令和2年8月31日公表）。

【新型コロナ危機を契機とした変化】

テレワークやデジタル化
の進展

生活面の重視
職住近接ニーズの高まり

ゆとりあるオープンスペース
へのニーズの高まり

都市のもつ集積のメリットを活かしつつ、「三密」の回避、感染拡大防止と
経済社会活動の両立を図る新しいまちづくりが必要



【今後のまちづくりの方向性】

- 新型コロナ危機を契機として生じた変化に対し、柔軟に「適応」していくことが必要。

- 老朽ストックの更新に合わせたサテライトオフィス等の提供（リニューアル化）
- まちづくりと一体となった総合的な交通戦略の推進
- 自転車を利用しやすい環境の整備
- まちなかの緑やオープンスペースの柔軟な活用
- リアルタイムデータ等を活用した人の行動の誘導
- 多様な避難環境の整備（避難所の過密回避）



良質なオフィス、テレワーク環境
の整備



居心地の良い
ウォーカブルな空間の創出



都市空間へのゆとり
(オープンスペース)の創出

等

1. 第2期基本構想で掲げる再生ビジョン

⑤ 再生ビジョンの修正案

鳥取駅周辺再生基本構想（H23.9策定）・・・「第1期構想」

【基本理念】

人が集い 交流し 魅力あふれる街

『鳥取 ^{オアシス} O A C I S』の創造

駅周辺地区では、市の広域交通の起点（Origin）として魅力的（Attractive）で人々が集い・交流（Communication）が進み、また新時代に対応した各種情報（Information）がますます集積する、持続可能（Sustainable）なまちづくりをめざします。

【駅周辺地区のめざすべき将来像】

- (1) 多機能を高度に集積した広域商圏対応型拠点の形成
- (2) 回遊性と滞留性をもたせた人が行き交う交通結節点の形成
- (3) 低炭素社会の実現に向けた都市環境の形成
- (4) 便利で安心、住み続けたいと思える快適な生活空間の形成

鳥取駅周辺再生基本構想（第2期）

20年先のまちの将来や方向性を見据えながら、今後10年間で優先的に取り組むべき基本方策についてまとめる

今後も継続した取り組みが必要

【基本理念】

- ⇒ 基本的に、第1期構想の基本理念を踏襲
- ⇒ 『鳥取OACIS』の実現に向けた3つの新たな視点（賑わい、憩い、適応）を追加
- ⇒ 詳細は【p.9】に記載

今後も継続した取り組みが必要

【駅周辺地区のめざすべき将来像】

- ⇒ 基本的に、第1期構想の将来像を踏襲
- ⇒ 社会情勢の変化等を踏まえ、更新・修正（将来像（2）を最優先に掲げる）
- ⇒ 詳細は【p.10~13】に記載

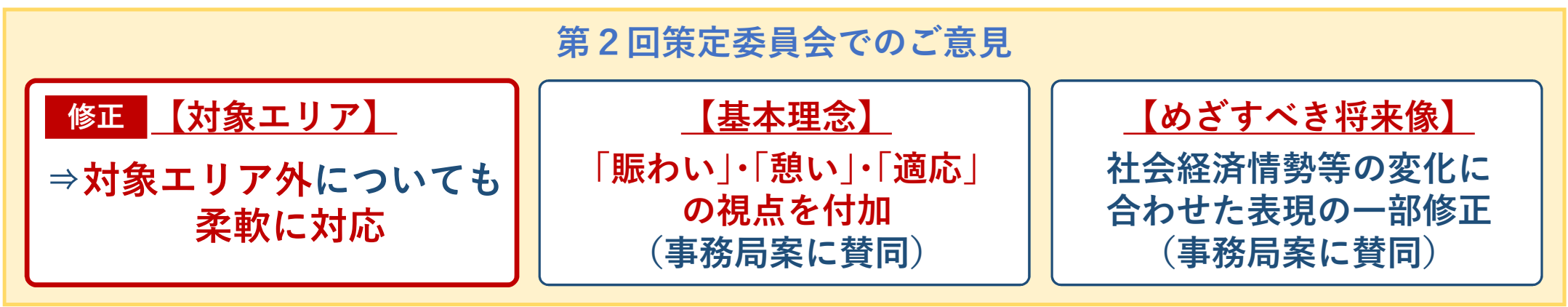
1. 第2期基本構想で掲げる再生ビジョン

⑤ 再生ビジョンの修正案



第1回策定委員会でのご意見（情報発信の拠点・利便性の向上・賑わい創出の場）

鳥取駅周辺地区の再生に向けた取り組みが引き続き必要（第2期基本構想の策定へ）



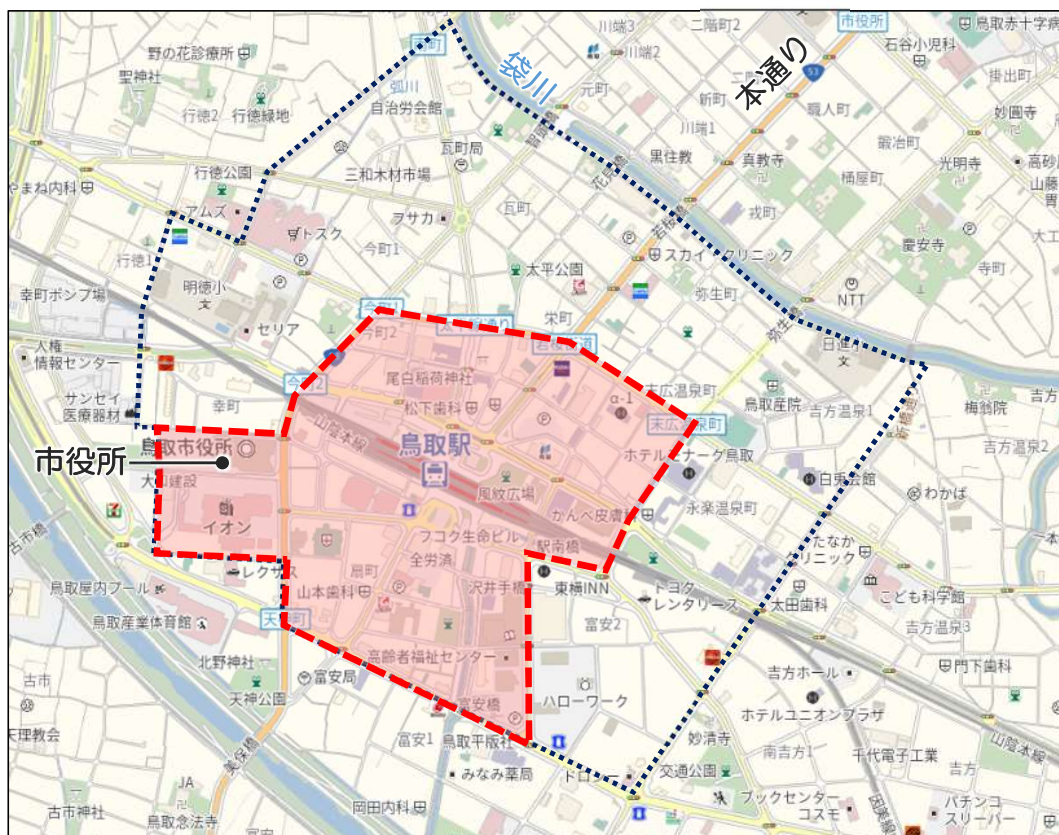
将来像の実現に向けた方策・将来像のイメージを検討

1. 第2期基本構想で掲げる再生ビジョン

⑤ 再生ビジョンの修正案【対象エリア】

第2期基本構想の策定にあたっては、構想内容の明確化・具体化、役割の明確化が求められている

- 対象エリアは「第3期鳥取市中心市街地活性化基本計画」に定める区域のうち、鳥取駅周辺を中心とした区域（エントランス機能強化ゾーン）を設定。
- 第1期基本構想の対象エリア（中活区域のうち袋川以南）よりも狭く、交通結節機能や情報発信機能のさらなる強化、まちなか回遊性・滞留性の向上を図る目的から、エリアを絞って設定。
- なお、広域的に検討が必要な課題については、この範囲外も対象とする。 追記



対象エリア外
についても柔軟に対応

凡例

 鳥取駅周辺再生基本構想（第2期）
の対象区域

 鳥取駅周辺再生基本構想（第1期）
の対象区域

1. 第2期基本構想で掲げる再生ビジョン

⑤ 再生ビジョンの修正案 【基本理念】

再 掲

人が集い 交流し 魅力あふれる街『鳥取OACIS』の創造

- ・ **基本理念（キャッチフレーズ）は、第2期基本構想においても引き続き継承します。**
起点(Origin)・魅力(Attractive)・交流(Communication)・情報(Information)・持続可能(Sustainable)
- ・ **駅周辺地区再生のキーワードである『鳥取OACIS』に、「駅周辺地区エリア」＝『鳥取OACIS』というエリアを示す意味を付加します。**
- ・ **次の視点に基づき鳥取駅周辺の再生を図り、魅力あふれる『鳥取OACIS』の創造をめざします。**

「賑わい」・「憩い」・「適応」

賑わい

- ・ **人々が集い賑わいを生む駅前空間を「賑わいの起点」として積極的に活用します。**
- ・ **さらに、その場所から生まれる賑わいを駅周辺へと拡げることにより、エリア全体の価値が向上することをめざします。**

憩い

- ・ **駅前と駅周辺との物理的・心理的バリアを取り除き、市民や来訪者が気軽に憩い過ごせる「憩いの場」となるよう、駅前と駅周辺が一体となったエリア形成をめざします。**

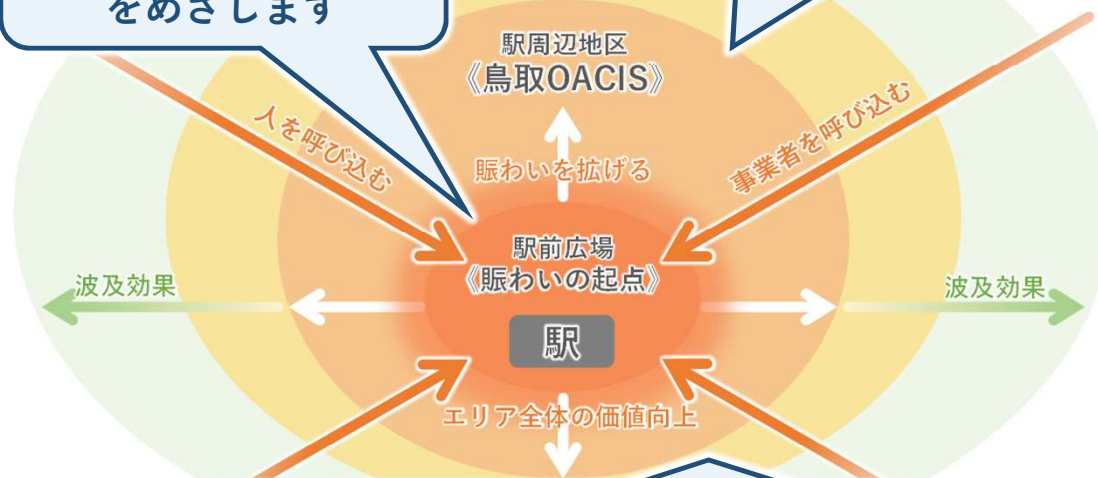
適応

- ・ **新型コロナ危機を契機とした社会構造の変化（3密回避、モバイルワーク、ワーケーション等）に適応した『鳥取OACIS』の創造をめざします。**

【概念図】

賑わいを生み・拡げ
エリア全体の価値向上
をめざします

駅前と駅周辺が一体となった「憩いの場」の
形成をめざします



社会構造の変化に適応した
『鳥取OACIS』の創造をめざします

1. 第2期基本構想で掲げる再生ビジョン

【参考】基本理念とめざすべき将来像との関係

駅周辺地区では、市の広域交通の起点 (Origin) として魅力的 (Attractive) で人が集い・交流 (Communication) が進み、また新時代に対応した各種情報 (Information) がますます集積し発信する、持続可能 (Sustainable) なまちづくりをめざします。
《まちづくりの理念であり、OACISという場を作るというのが今回の構想》



【基本理念】

【意味合い】

【鳥取OACISが意味する将来像】

O

・ 起点 (Origin) であるとともに拠点・結節点でもある、いわば心臓のような存在。また、鳥取市だけでなく山陰東部圏域の心臓部。

A

・ 魅力的 (Attractive) で人が集えば活動が起き (Active)、賑わいが生まれる
・ 人 (居住者・来訪者) を惹きつける「選ばれるまち」へ

C

・ 交流 (Communication) が起きて様々な結びつきが生まれる (Connect) ことにより、様々な波及効果が生まれる

I

・ 情報 (Information) の集積だけでなく、発信する場であることも重要

S

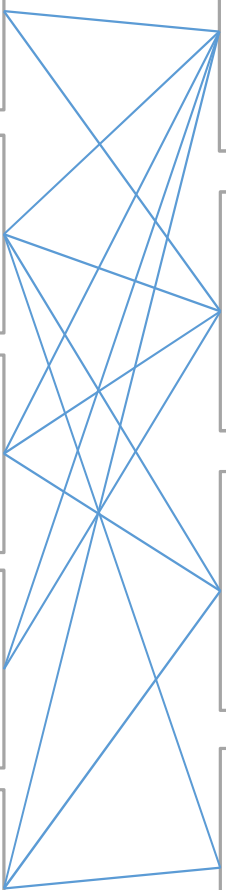
・ 人口減少・低成長時代に都市経営面での持続可能性 (自立して回っていく仕組みづくり)
・ 地域環境だけでなく地球環境へも配慮

回遊性・滞留性の向上 (駅から溜り流れる)
「居心地が良く歩きたくなるまち」
集まった人が佇み、自然にまちなかや市内に流れる。乗換等のしやすさ、歩きやすく魅力的な空間 (道・街) や情報が必要。歩くことによる健康維持も期待。

拠点機能強化 (駅に集まる)
「人が集まる魅力のあるまち」
鳥取東部圏域の人々の多様なニーズを満たす機能を集積。人や事業者が集まる起点の形成、集まることの魅力 (賑わい・交流・情報が生まれる起点)

持続可能性 (活動が続く)
「未来に続き、受け継ぐまち」
利用促進等による公共交通の維持。緑化、自転車利用等による地域環境の保全。賑わい創出、コミュニティ維持等のための持続的な市民活動や事業活動。

生活基盤 (居住を支える)
「住み続けられるまち」
まちなか居住及び鳥取に住む人を支える駅周辺。鳥取に住んでもらうための魅力創出と、誰もが住み続けられる安全・安心、快適な環境形成。



⑤ 再生ビジョンの修正案 【めざすべき将来像】

【めざすべき将来像】

(1) 回遊性と滞留性を持たせた人が行き交う多層交流結節ゾーンの形成

…「居心地が良く歩きたくなるまち」

(2) 多様な機能が高度に集積した広域圏対応型拠点の形成

…「人が集まる魅力のあるまち」

(3) 持続可能な地域社会の実現に向けた都市環境等の形成

…「未来に続き、受け継ぐまち」

(4) 誰もが便利で安心、住み続けたいと思える快適な生活空間の形成

…「住み続けられるまち」

鳥取OACISが
意味する将来像を
サブタイトルに追加

2. 将来像の実現に向けた方策(案)

① 実現に向けた方策検討の考え方

鳥取駅周辺再生基本構想（第2期）

20年先のまちの将来や方向性を見据えながら、今後10年間で優先的に取り組むべき基本方策についてまとめる

【基本理念】

第2回策定委員会の議題

人が集い 交流し 魅力あふれる街『鳥取O A C I S』の創造
「賑わい」・「憩い」・「適応」
(ウォークブルや新型コロナ危機に対応した「まちづくり」)

【めざすべき将来像】

- (1) 「居心地が良く歩きたくなるまち」
- (2) 「人が集まる魅力のあるまち」
- (3) 「未来に続き、受け継ぐまち」
- (4) 「住み続けられるまち」

今回
の議題

将来像のイメージ

今回
の議題

将来像の実現に向けた方策

実現に向けた基本方針

個別事業

2. 将来像の実現に向けた方策(案)

② 将来像のイメージ(案)

【めざすべき将来像】

(1) 「居心地が良く歩きたくなるまち」

歩行者動線及び案内機能の改善・強化により、鳥取駅周辺と既存商業等中心市街地内の施設間に、**多様な人の流れ**を作り出すとともに、**人が集まり、交流できる憩い空間**を創出します。

また、乗り換え機能等が充実した、利便性の高い交通結節点機能の形成をめざします。

(2) 「人が集まる魅力のあるまち」

商業・業務機能とともに、医療・福祉、文化、観光、交通など、**多様化するニーズに対応した機能**を集積し、拡大する広域圏の受け皿となるとともに、**山陰東部圏域の情報発信する拠点**をめざします。

また、駅周辺地区における民間投資の動向を見据えつつ、行政として出来る施策を同時に展開することで、より大きな相乗効果を生み出します。

(3) 「未来に続き、受け継ぐまち」

公共交通の利用促進を図るとともに、**都市空間の緑化**の推進・保全を行い、**持続可能な地域社会**の実現に向けた、都市環境の形成をめざします。

また、持続的な地域の賑わい創出の仕掛けづくりをめざします。

(4) 「住み続けられるまち」

多機能集積の立地と交通の利便性の高さを活かし、近隣地域の生活を支え、また多様な世代等が憩い、集える環境を整えるとともに、誰もが「**歩いて暮らせるまち**」を実現することで、**便利で楽しく、安心、安全、快適な生活空間**の形成をめざします。



駅前の横断歩道設置 (大分駅)



歩道を活用した憩いの場 (神戸市)



シェアスペースの整備 (宇部市)



観光・産品情報発信拠点 (佐賀市)



商店街アーケードの緑化 (福山市)



シェアサイクル (岡山市)



マイカー流入規制 (姫路駅)



歩道の拡幅・段差解消 (姫路市)

2. 将来像の実現に向けた方策(案)

③ 実現に向けた基本方針(1) –ご意見・ご提案の体系的整理より作成–

(1/2)

駅周辺の現状・調査結果等	第1回委員会のご意見・ご提案	第2回委員会のご意見・ご提案	実現に向けた基本方針
<ul style="list-style-type: none"> ・風紋広場の利活用が活発でない ・バードハットでのイベント開催による集客効果 ・子育て交流や高齢者支援機能の未整備(第1期構想) 	<ul style="list-style-type: none"> ・3密を防ぐ賑わい創出にはオープンスペースの活用が有効 	<ul style="list-style-type: none"> ・人が集まり広がる場所としてオープンスペースを様々な形で活用 ・日常的・必然的に住民が通う場所にする ・地域資源を活かした機能 	<p>①来訪目的になる施設・機能の付加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンスペースの積極的活用 ・住民が日常的に通う機能の充実 ・地域資源の活用
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性(国交省) ・「座る」や「溜まり」のできる公共空間の不足 ・空き家や空き店舗の活用がうまく進まない 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスペースの使い方・使いやすさ・役割について検討が必要 ・「アフターコロナ」のまちづくりを示す 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して集えるような働きかけが必要 ・防災機能を付加する 	<p>②安心して集える仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共空間のオープンな利活用 ・新しい生活様式に対応した機能の付加 ・防災機能の付加
<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーカブル推進都市への参加 ・レンタル自転車利用の増加 ・駐輪場不足に伴う駅周辺回遊性の制限 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーカブル推進による歩いて楽しいまち ・持続可能な社会に向けて自転車の活用が重要 ・学生等の利便性向上のため自転車に係る施設整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・「知らないうちに駅周辺に足が向いていた」という状況をつくりだすことが必要 ・利用する空間、歩行する空間の連続性・快適性・楽しさを創造 ・駅コンコース・アーケード・店舗1階部分で楽しい仕掛けをつくる 	<p>③空間の連続性・快適性・楽しさの創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩行空間の魅力向上 ・安全・便利に駅と周辺をつなぐ ・公共交通の利便性向上のための機能拡充 ・自転車の回遊性向上
<ul style="list-style-type: none"> ・バスターミナルの場所が駅から離れていて分かりづらい ・自家用車の乗り入れとタクシー待機場の混在 	<ul style="list-style-type: none"> ・機能的で利用しやすい広場空間の再配置 ・施設間の動線・視認性に考慮した再整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・バスターミナルの再整備は現状では議論しにくい ・関係者との合意形成が必要 	

2. 将来像の実現に向けた方策(案)

③ 実現に向けた基本方針(2) –ご意見・ご提案の体系的整理より作成–

(2/2)

駅周辺の現状・調査結果等	第1回委員会のご意見・ご提案	第2回委員会のご意見・ご提案	実現に向けた基本方針
<ul style="list-style-type: none"> 地下道にエレベーターがないなどバリアフリー対応の遅れ 駅前から横断できる方向が限られている(第1期構想) 駐車場の所在や満空状況が分かりにくい(使いにくい) 公共駐車場・駐輪場の未整備(第1期構想) 	<ul style="list-style-type: none"> 段差などベビーカーや車いすでは歩きにくい 駅前とまちをつなぐ平面横断歩道の設置 駅周辺における利用可能な駐車場の不足 公共交通だけでなくマイカー結節機能の付加が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 歩行者の安全性等を考慮し、駐車場と駅前との関係の整理が必要 既存駐車場を利用しやすくするため利用体系を整理(割引制度の統一等) 駐車場の満空情報等を発信する仕組みが必要 	<p>④歩行者優先の空間の再編</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰もが歩きやすい歩行空間整備 駐車場利用者の利便性向上
<ul style="list-style-type: none"> 駅前広場内の施設案内の不足 無料Wi-Fiの未整備 観光案内施設が離れている 	<ul style="list-style-type: none"> 案内が分かりにくい 見つけにくい 統一的なデザインで案内板を駅周辺一体的に整備 	<ul style="list-style-type: none"> 統一的なデザインで案内板を駅周辺一体的に整備 地域資源を活かした機能 	<p>⑤情報発信機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域資源情報等の発信 統一的なデザインの案内板の整備
<ul style="list-style-type: none"> 民間活力との連携や民間の商業活動への支援がうまく進まない 	<ul style="list-style-type: none"> 民間主導の事業が思うほど進まなかった 	<ul style="list-style-type: none"> 民間活力を活用する仕組みづくり等が必要 民間まちづくりファンドの設立も検討 	<p>⑥民間活力を活用する仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 公民連携体制の強化

2. 将来像の実現に向けた方策(案)

③ 実現に向けた基本方針(3)【基本理念に重ねたイメージ】

《人を呼び込む》
賑わいの起点・憩いの場づくり

① 来訪目的になる施設・機能の付加

対応策の例

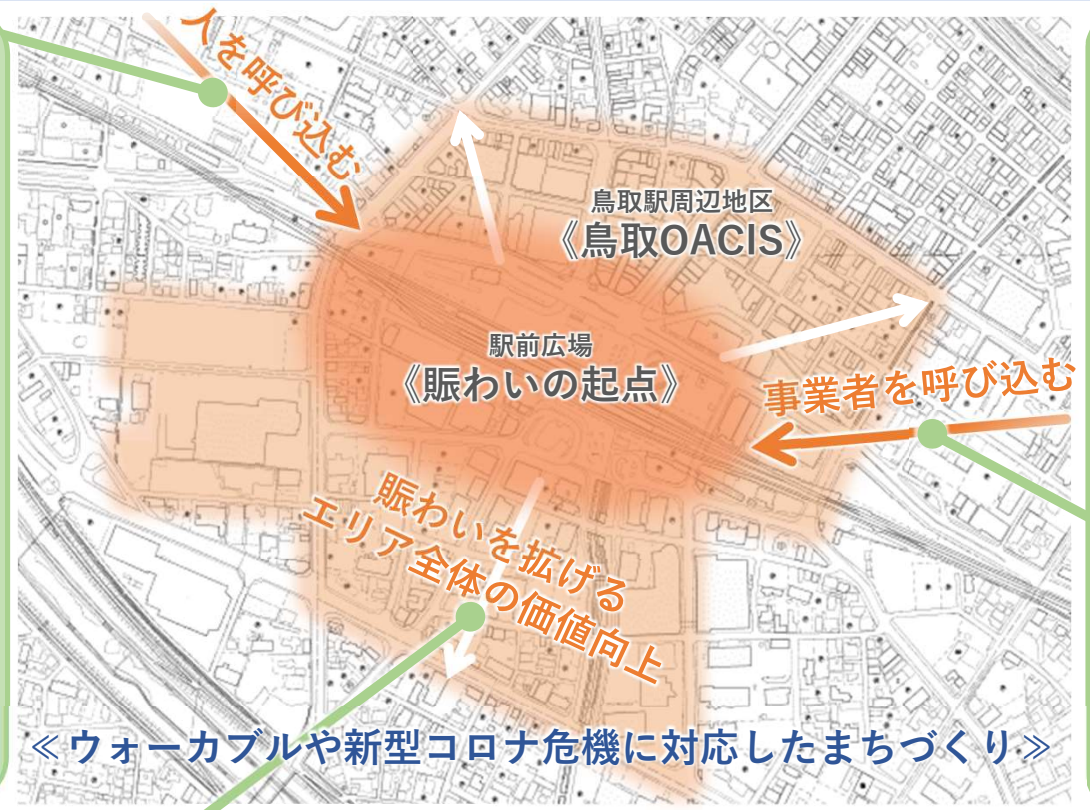
- オープンスペースの積極的活用
- 住民が日常的に通う機能の充実
- 地域資源の活用



② 安心して集える仕組みづくり

対応策の例

- 公共空間のオープンな利活用
- 防災機能の付加
- 新しい生活様式に対応した機能の付加

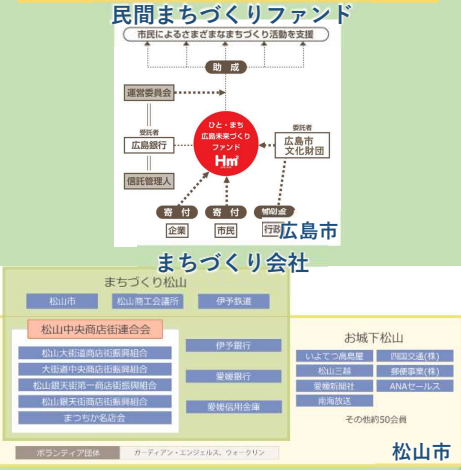


《事業者を呼び込む》
民間活力の活用

⑥ 民間活力を活用する仕組みづくり

対応策の例

- 公民連携体制の強化



③ 空間の連続性・快適性・楽しさの創造

対応策の例

- 歩行空間の魅力向上
- 安全・便利に駅と周辺をつなぐ
- 公共交通の利便性向上のための機能拡充
- 自転車の回遊性向上



④ 歩行者優先の空間の再編

対応策の例

- 誰もが歩きやすい歩行空間整備
- 駐車場利用者の利便性向上



⑤ 情報発信機能の充実

対応策の例

- 地域資源情報等の発信
- 統一的なデザインの案内板の整備



2. 将来像の実現に向けた方策(案)

【参考】4つの「めざすべき将来像」と6つの「実現に向けた基本方針」との関係

4つの「めざすべき将来像」

6つの

「実現に向けた基本方針」

(1) 「居心地が良く歩きたくなるまち」

歩行者動線及び案内機能の改善・強化により、鳥取駅周辺と既存商業等中心市街地内の施設間に、**多様な人の流れ**を作り出すとともに、**人が集まり、交流できる憩い空間**を創出します。

また、乗り換え機能等が充実した、利便性の高い交通結節点機能の形成をめざします。

(2) 「人が集まる魅力のあるまち」

商業・業務機能とともに、医療・福祉、文化、観光、交通など、**多様化するニーズに対応した機能**を集積し、拡大する広域圏の受け皿となるとともに、**山陰東部圏域の情報発信する拠点**をめざします。

また、駅周辺地区における民間投資の動向を見据えつつ、行政として出来る施策を同時に展開することで、より大きな相乗効果を生み出します。

(3) 「未来に続き、受け継ぐまち」

公共交通の利用促進を図るとともに、**都市空間の緑化の推進・保全**を行い、**持続可能な地域社会**の実現に向けた、都市環境の形成をめざします。

また、持続的な地域の賑わい創出の仕掛けづくりをめざします。

(4) 「住み続けられるまち」

多機能集積の立地と交通の利便性の高さを活かし、**住み続けられる環境**を整えるとともに、誰もが「歩いて暮らせるまち」を実現することで、**中心市街地等への居住促進を支援、下支えする便利で楽しく、安心、安全、快適な生活空間**の形成をめざします。

①来訪目的になる施設・機能の付加

- ・ オープンスペースの積極的活用
- ・ 住民が日常的に通う機能の充実
- ・ 地域資源の活用

②安心して集える仕組みづくり

- ・ 公共空間のオープンな利活用
- ・ 新しい生活様式に対応した機能の付加
- ・ 防災機能の付加

③空間の連続性・快適性・楽しさの創造

- ・ 歩行空間の魅力向上
- ・ 安全・便利に駅と周辺をつなぐ
- ・ 公共交通の利便性向上のための機能拡充
- ・ 自転車の回遊性向上

④歩行者優先の空間の再編

- ・ 誰もが歩きやすい歩行空間整備
- ・ 駐車場利用者の利便性向上

⑤情報発信機能の充実

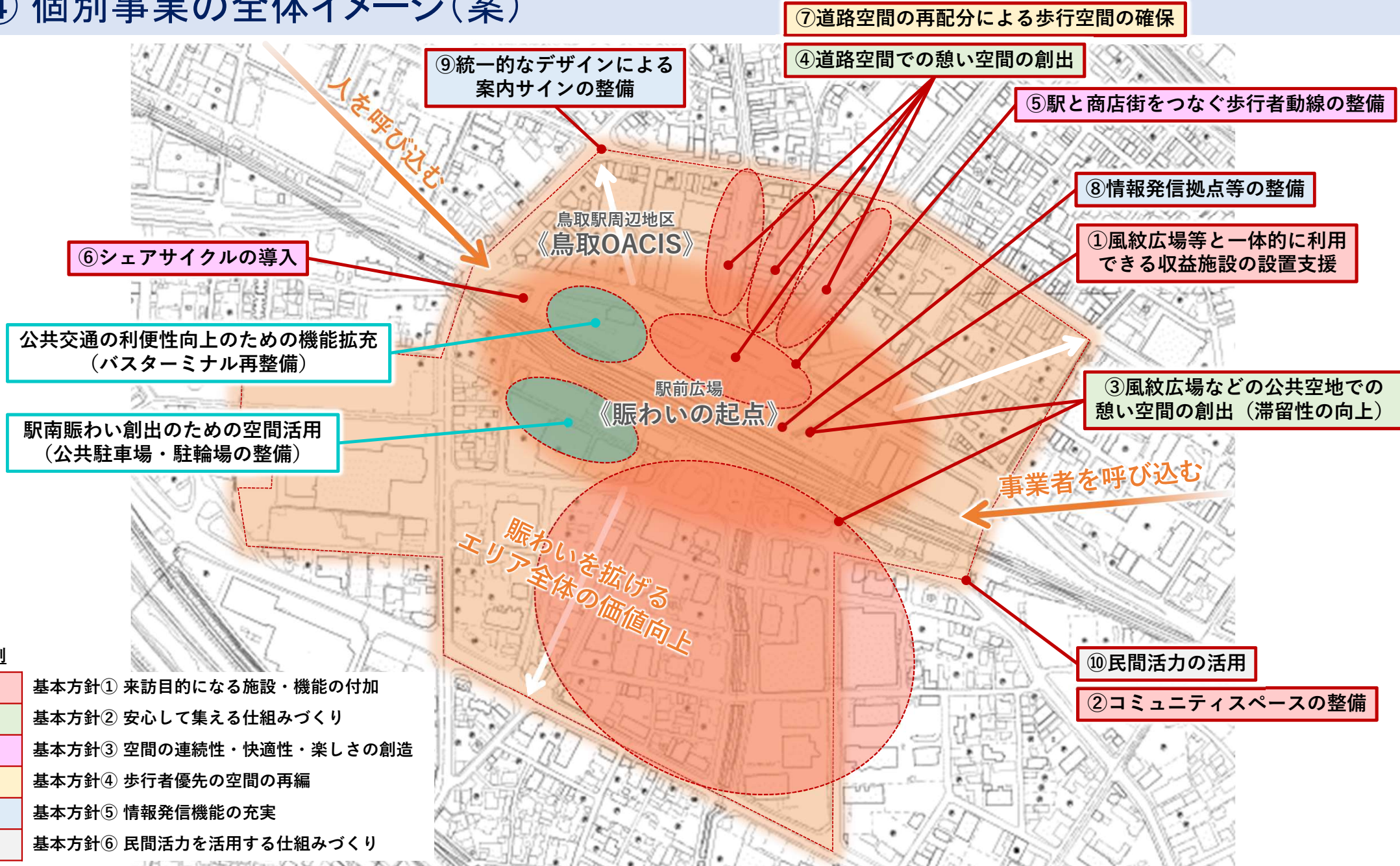
- ・ 地域資源情報等の発信
- ・ 統一的なデザインの案内板の整備

⑥民間活力を活用する仕組みづくり

- ・ 公民連携体制の強化

2. 将来像の実現に向けた方策(案)

④ 個別事業の全体イメージ(案)



※個別事業案とイメージは、今後の鳥取駅周辺地区のめざすべき姿を表したものであり、実施計画や事業を決定・拘束するものではなく、取り組みの方向性を示すものです。
※個別事業の実施に向けて、関係者間での合意形成や協議・調整の上、各種調査の実施や計画の策定、社会実験等による検討を進めていきます。

2. 将来像の実現に向けた方策(案)

⑤ 概略スケジュール(案)

駅周辺地区のめざすべき将来像の実現に向け、関係者間で今後取り組むべき先導事業等の検討、協議・調整の上、各種調査の実施や計画の策定、社会実験等を進めていきます。

